

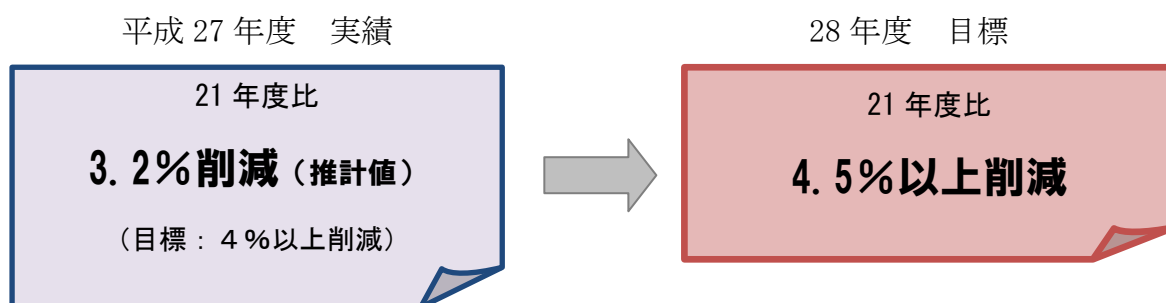
## 「ヨコハマ 3 R 夢プラン」の推進について

日頃より、「ヨコハマ 3 R 夢プラン」の推進に御理解、御協力をいただき、誠にありがとうございます。皆様のおかげをもちまして、平成 27 年度の「ごみと資源の総量」は、3 R 夢プラン策定以降、最も高い削減率となりました。

このたび、本市における 28 年度の目標値を策定しましたので、目標達成に向けて、市民の皆様とともに 3 R 夢プランの推進に取り組んでまいります。

今後、各区において目標を設定し、取り組んでいただきますが、資源循環局としましても一丸となって取組を進めてまいりますので、引き続き御協力をお願いいたします。

### 1 「ごみと資源の総量」



27 年度の総量は、約 123 万 5 千トンで、21 年度から約 4 万 1 千トン削減しました (▲3.2%)。市民・事業者の皆様による 3 R の取組の効果が表れており、着実に「ごみと資源の総量」を削減しています。

28 年度は第 2 期推進計画の目標である「29 年度までに 5%以上削減」を着実に達成するため「4.5%以上削減」を目標とします。そのため、「食品ロスの削減」を重点に取り組んでいきます。

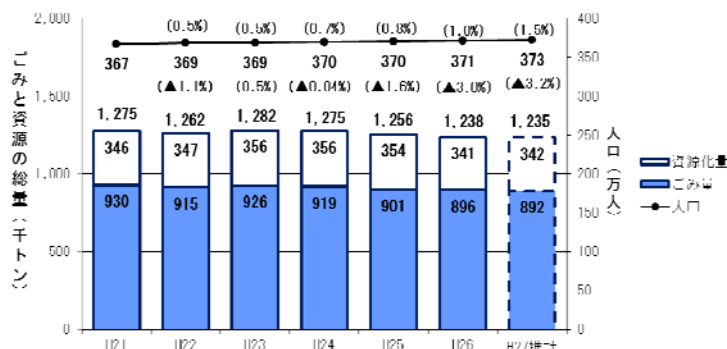


御協力をお願いします！！

- 食品ロス削減に向けた取組の推進
- 家庭における生ごみ減量化の促進
- プラスチックや古紙の分別徹底に向けた取組

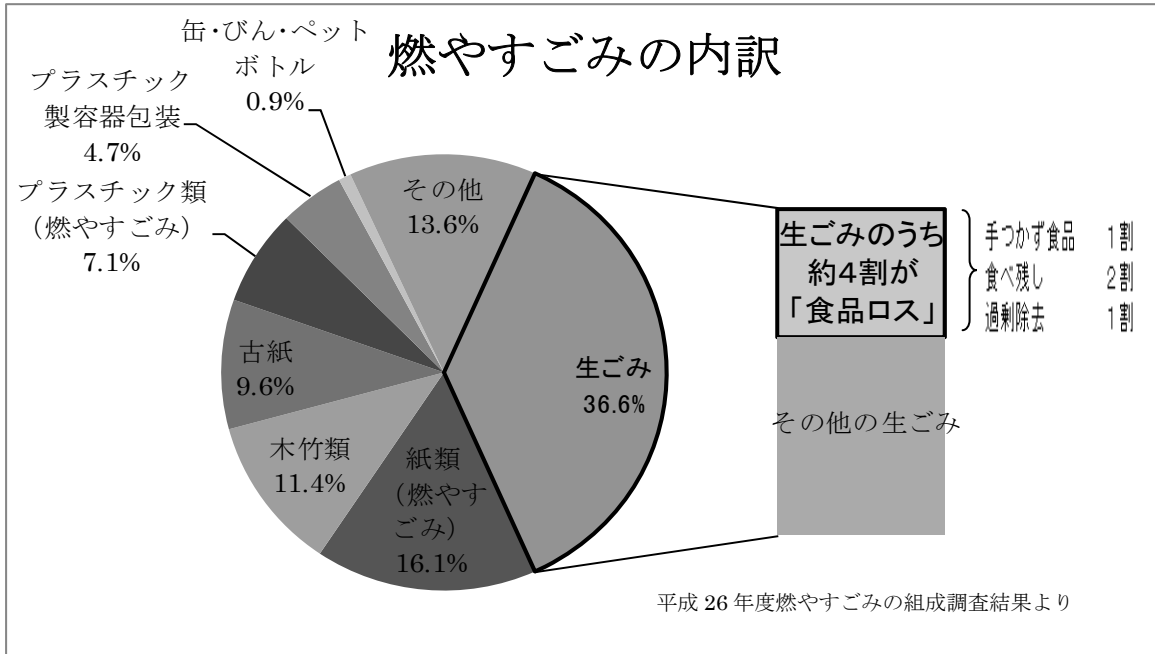
### コラム: 「ごみと資源の総量」の推移

23 年 1 月の「ヨコハマ 3 R 夢プラン」策定以降、「ごみと資源の総量」は、24 年度までは微減にとどまっていたが、市全体では人口が増加しているなか、26 年度は▲3.0%、27 年度は▲3.2%と、最も高い削減率となっています。



## 2 食品ロス削減を重点とする理由

横浜市の家庭から出される燃やすごみのうち、「生ごみ」が最も大きな割合（36.6%約 20 万トン）を占めています。そのうち、約 4 割にあたる 8 万 7 千トンが「食品ロス」と推計されます。



家庭から排出されるごみは削減傾向にありますが、さらなる削減を進めるためには、燃やすごみの中で最も多い割合を占める「生ごみ」の量を減らすことが必要であり、さらに、その中で約 4 割を占めている「食品ロスの削減」が重要です。

## 3 食品ロスの原因と取組方針

- 手つかず食品  
大量に購入、期限切れなど
- 過剰除去  
野菜の皮のむき過ぎなど
- 食べ残し  
作り過ぎ、好き嫌いなど



- 「冷蔵庫 10・30 運動」  
在庫食材のチェック、余分購入の抑制
- クッキング教室  
丸ごと使い切り、適正な保存方法、リメイク料理、野菜の皮の利用レシピ
- 生ごみの堆肥化（土壌混合法等）の普及  
生ごみ量の削減



買い物前に買い置きを確認する「冷蔵庫 10・30 運動」



食材を有効に使い切るクッキング教室



残った生ごみを土に混ぜて堆肥化